

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人堤学園
施設名	つつみの森認定こども園
報告者（役職）	新井洋子（園長）
住所・連絡先	埼玉県上尾市大字上 22-5
	☎ 048-772-1115
	E-mail mail@tsutsumi.ed.jp

○タイトル（保育計画）

めざせSASUKE！ 登る・くぐる・跳び越える ～0歳からのチャレンジ～

○主な助成備品

跳び箱、踏切板、平均台、マット、ブロックトンネル

1. 保育計画策定の目的

認定こども園の特長を生かし、0歳から小学校就学前までの個人個人の発達段階に応じた運動環境を提供して低下傾向にある子どもの体力増進をはかると同時に、子ども自身が体を動かすことの大切さや楽しさを十分に認識してもらえるように努めていく。

課題にチャレンジしてそれを克服していくことで自信を深め、何事にも積極的に取り組んでいけるような心身の成長を促していく。

2. 具体的な実施内容

1 ブロックトンネル

トンネルに合わせて体を前後左右に動かす。配置を変えることで変化を楽しむ。狭い所や低い所で自分の体がどうなっているかを感じ、どうしたらうまく通り抜けられるかを考えながら動く。

2 マット

乳児はマットの上でハイハイしたり、歩いたりして、マットの感触を楽しむ。慣れてきたらマットに傾斜をつけるようにしていく。さらに3～5歳児は前転、側転、後転にチャレンジできるよう発展させていく。

3 平均台

頭や体をぶつけないように平均台の下をくぐることから始め、3歳くらいからはバランスをとりながら直進で渡れるようにする。

4 飛び箱

4歳児は2段の上にマットを敷き、その上を前進することからはじめる。その後補助を受けながら3段を跳べるように練習する。5歳児は手の位置、踏み切り方に留意しながら、4段、5段、6段と段数を増やしていき、チャレンジ精神を養い、達成した時の充実感と自信を得られるような環境づくりに努める。

また、上記のトンネル、マット、平均台を組み合わせたサーキットをつくり、週1回から2回のペースで楽しむことで、体力増進につなげていく。



0～2歳児のサーキット運動



5歳児のサーキット運動

3. その成果と評価

0～2歳児

マットの素材が柔らかいので、乳児はその感触を楽しみながら安全に安定した歩行ができるようになっていった。またマットに傾斜をつけると、はじめは転倒することもあったが、繰り返すことで足腰が安定し、体幹部が鍛えられていった。慣れてくると傾斜角度を急にすることでより楽しく運動することができた。

ブロックトンネルでは狭い所や低い所をぶつからないように考えて動く過程で自分の体がどうなっているのかを感じ、体のイメージを高めることができた。これにより日常生活の様々な体の動きもスムーズになった。またトンネル内の長い直線距離をはい続けることで、胸や肩、骨盤まわりの筋肉が発達し、歩行がより安定していった。



これらの器具を組み合わせたサーキット運動では、楽しみながら体力をつけていっただけではなく、並んで順番を待つといったルールを少しずつ学んでいく良い機会にもなった。また異年齢で行うことで下の子は上の子の真似をし、上の子は下の子に負けまいと頑張る姿勢が見られ、お互いを刺激しあいながら成長することができた。

3～5 歳児

今回導入した器具を使うことで、雨天時でも楽しく効果的に体力づくりができるようになった事が大きい。3歳4歳児は、マットや平均台を秋の運動会の競技に活用したところ、子どもたちのやる気を高め、初めの頃は補助が必要だった前転やバランス歩行がほぼ全員できるようになった。5歳児の飛び箱については、1段1段高くなっていく過程が子どもたちにとって非常に挑戦しがいのある体験となった。



難しい、怖い、失敗したくないといった気持ちを抑え、友だちからの刺激と励ましを受けて頑張ろうという気持ちが持てるようになり、目標をクリアした喜びを各自が味わうことができた。(5歳児60人中48人が最高段の6段をクリア) その結果、他の物事に対しても自信をもって積極的に取り組んでいける態度が身に付いたようである。

さらに最大の効果として、子どもたちの運動に対する意欲が我々の期待以上に高まったことがあげられる。当園では3～5歳の希望者を対象に週1回の課外体操教室を開催しているが、器具導入前(平成27年)の参加園児が66人だったのに対して、今年度(平成29年)の参加園児は101人と大きく増加しており、子どもたちが体を動かすことの楽しさを知り、自分からすすんでスポーツに取り組むようになったことに大きな意義があったと考える。

4. 今後の課題と展望

0～2 歳児

今年は異年齢児が合同で活動することが多く、どうしても年齢の低い子どものレベルに合わせがちだったので、今後は同年齢(クラスごと)の活動も行ってより難度の高いレベルに挑戦できるような環境づくりに取り組みたい。また器具の使い方をいろいろ工夫し、子どもたちが長い期間興味を持って楽しみながら取り組めるようにしていき、身体的にも情緒的にも健全な成長がはかれる環境づくりを目指していきたい。

3～5 歳児

怪我をせずに段階的に体力を身につけるためには、柔軟性が大切と考える。そこで今後は体のやわらかい3歳児からマット運動をより多く取り入れて、柔軟性を伸ばしていく内容に取り組みたい。また子どもの体力増進には保護者の意識を高めることも重要である。

こうした器具を使った運動の様子を保育参観等で実際に保護者に見てもらい、また未就園児に対しても子育て支援の親子教室などで運動器具を積極的に活用していけるような体制をつくっていききたい。

以上